

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.235 2021.7.1



第8期市民学芸員養成講座の様子



第9期市民学芸員養成講座の様子



旧制高等学校記念館

第10期 市民学芸員養成講座を開催中です！

今年度は
旧制高等学校記念館で
北杜夫に関する成果発表展を
開催します



北杜夫（1927～2011）とは…
東京生まれの作家・精神科医。1945
年に松本高等学校に入学。ベストセ
ラーになったエッセイ『どくとるマン
ボウ青春期』では、松本高等学校
時代の思い出を描いている。

もくじ	誌上博物館	◇ 馬場家当主が見た明治初期の博覧会……………2
	博物館のノートから	◇ 似ている……………4
	博物館のノートから	◇ 族の作成について……………5
	博物館のノートから	◇ 休館通信～新博物館への道～……………6
	博物館TOPICS	◇ 企画展「いきもののなまえ」……………6
	博物館TOPICS	◇ 夏季特別展「江戸時代の時」/まつもとの七夕2021……………7
	ガイドコーナー	◇ はんでんぼく……………8



パンカラの学生（柚木沙弥郎画）

馬場家当主が見た明治初期の博覧会

1 はじめに

重要文化財に指定されている馬場家住宅の主要建築物を建てた第12代当主馬場治左衛門は、明治6年（1873）に西国への旅に出発し、11府県を3カ月にわたり旅しています。その模様は『道中日記録』と題された1冊にまとめられており、明治初期の様子を今に伝えています。馬場家住宅では、令和元年（2019）と2年に道中日記録を扱った企画展を開催し、各地の名所や都市の様子などを紹介しました。

治左衛門は、道中日記録に鉄道など明治の近代化を象徴するものを記録していますが、その中に博覧会の記述があります。明治6年は、京都で「第二回京都博覧会」が開催されており、治左衛門はその会場を訪れていました。ここでは、道中日記録の中から企画展で紹介しきれなかった京都博覧会を取り上げ、治左衛門が見たであろう明治初期の博覧会を覗いてみようと思います。



『道中日記録』表紙
(所蔵：馬場太郎氏)



『道中日記録』博覧会記載頁
(所蔵：馬場太郎氏)

2 京都博覧会の背景

幕末の戦火による荒廃に加え、天皇が東京に移り住んだことにより、明治当初の京都は衰退の様相を見せていました。こうした中、知識の啓発・産業の振興・京都の復興を目的に、当時西洋で行われ、その模様が日本に伝えられていた博覧会を開催しようという計画が住民の間でなされます。こうして日本で初めて「博覧会」を称した「京都博覧会」が、明治4年10月10日から西本願寺を会場に開催されました。33日間で約1万1千人が来場した本会でしたが、開催者にとっては内容が古物の展示にとどまり、当初の理念を達成するものではなかったとしてその後の博覧会と区別され回数に加えられていません。

明治5年3月10日には、京都博覧会の発起人らにより創設された「京都博覧会社」を中心として、「第一回京都博覧会」が開催されました。この博覧会は京都府と民間が一丸となり準備を進め、西

本願寺に知恩院・建仁寺を加えた3会場で50日間にわたり行われました。展示品は国内外から広く出品を募り、古物の他に工芸品や機械など産業振興を意識したものも並びました。また、茶会や踊りなど娯楽性の高い催しを行う「附博覧会」の開催や当時日本国内の移動に制限があった外国人の入京許可など、積極的な集客活動がなされます。その結果、約3万9千人が博覧会を訪れました。



第二回京都博覧会案内図(画像提供：乃村工藝社)

そして、明治6年3月13日から開催されたのが「第二回京都博覧会」でした。この博覧会の特徴として、現在の京都御苑内に位置する京都御所と仙洞御所を会場にしたことが挙げられます。これは、第一回京都博覧会で3つの寺院に分割されていた会場を集約することで観覧者の不便を解消するとともに、宮中参詣に訪れる人々の来場を狙う目的がありました。人々が立ち入ることができなかった京都御所を会場にした効果は絶大で、90日間の来場者は約70万6千人を数えました。

これら京都の博覧会は、その後全国各地で行われる博覧会の先駆けになりました。寺社などを会場にする手法や、集客を目的とした附博覧会の開催などは、明治6年11月に開催された松本博覧会をはじめ、多くの博覧会に類型を見ることができます。

3 治左衛門が見た第二回京都博覧会

賑わいを見せる第二回京都博覧会に、治左衛門は足を運んでいます。明治6年3月23日に妻と奉公人1人を連れて馬場家を出発した治左衛門は、4月11日に京都に到着します。以後4月23日まで京都に滞在しますが、京都博覧会には到着翌日の12日に向かっています。朝6時に宿を出た治左衛門は、御所に到着すると、「式ノ御門入

口」(建春門脇の小門)で500文を払い入場券を
購入し、宮中へ進みます。明治4年には円や銭と
いった新しい通貨が既に定められていましたが、
旧来の通貨でも問題なく支払っています。



京都御所内の紫宸殿(筆者撮影)

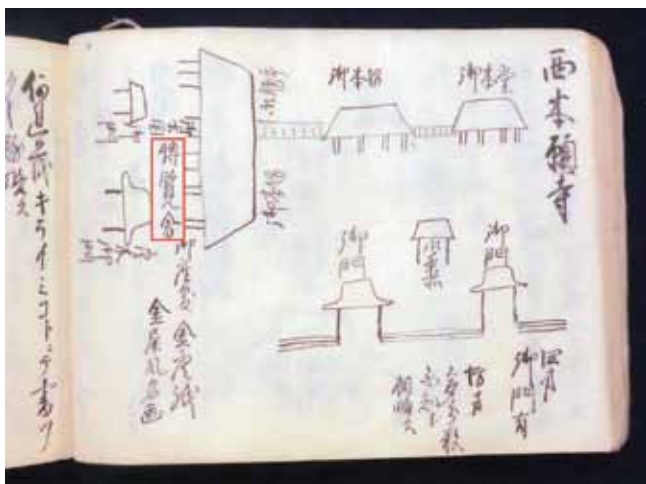
京都御所では宮中の4カ所を展示場とし、御物の
香炉や筆筒などの展示を皮切りに、各種美術
品、鉱石をはじめとする自然物、西陣織などの工
芸品、各地の飲食物、最新の機械、日用品といっ
た様々な品目が展示されました。また、西陣織や
陶器製造の実演、乗馬体験などもなされており、
宮中を巡りながらこれらを鑑賞・体験できまし
た。道中日記録には何を見たのか記されていま
せんが、5月15日に同様にこの博覧会を訪れた福
島商人の日記には、総金蒔絵の筆筒や西洋の織機
など、珍品名品の数々を目にして驚く人々の様子
が残されています。また、順路には茶屋や売店も
あり、治左衛門は所々に設けられた茶屋で休みな
がら宮中を進み、出口の清所門内手前で扇子と名
所絵図を購入しています。

次に治左衛門は京都御所の南東に位置する仙洞
御所に行き、150文を払い中へ入ります。仙洞御
所は嘉永7年(1854)の火災により建物を焼失し
ており、庭園のみが残されていました。ここでは
「禽獣会」という動物の展示がなされていました。
展示されていた動物には、孔雀や狐など鳥類・小
動物の他に、熊など大型獣もありました。また、鹿
や猿は池の島に放し飼いにされていたようです。
道中日記録の中に「品々鳥獣等多分」や「春日野
鹿悠然」という一文が見られることから、動物た
ちの姿は治左衛門にとって印象深かったのではな
いと思われます。

12日の博覧会に関する記述はここで終わり、
翌13日からは、京都各所を巡る姿が描かれてい

ます。20日に訪れた西本願寺の記述には手書き
の境内図と「博覧会」の文字が見られます。当時
西本願寺では、博覧会の会期終了後も展示の一部
を見られるよう、海外の博物館を意識したという
常設博覧会が開かれていました。

治左衛門は22日にも一人で京都御所に赴いて
おり、博覧会を観覧したことを簡潔に書き残して
います。道中日記録には詳しい心情は書かれてい
ませんが、その行動には博覧会に対する強い関心
がうかがえます。



治左衛門の手による西本願寺境内図。赤枠で囲った箇所「博覧会」の文字が見える

4 おわりに

京都御所という権威者の空間を大胆に展示会場
とした第二回京都博覧会は、日本の文明開化を治
左衛門に強く感じさせたのではないのでしょうか。

馬場家には、道中日記録をはじめ「馬場家文書」
と呼ぶ古文書類が残されています。今後も興味深
い資料があれば折を見てお伝えしていきたいと思
います。

(重要文化財馬場家住宅 主任／宮下慶祐)

参考文献

- 京都博覧協会編『京都博覧会沿革史』(京都博覧協会
1903)(国立国会図書館蔵)
- 大槻喬編『京都博覧協会史略』(京都博覧協会 1937)
(乃村工藝社所蔵)
- 東京文化財研究所編『明治期府県博覧会出品目録 明
治四年～九年』(中央公論美術出版 2004)
- 服部亜由未「馬場家文書「道中日記録」」(『名古屋大
学重要文化財馬場住宅研究センター報告 2015』 2015)
- 高橋兼助著・高橋歌子訳『明治六年の旅日記 福島の
絹商人、文明開化と出会う』(カネジュウ 2017)

似て いる

比較文化論などという大そうな話ではありませんが、民俗事象を調査する際、「似ている」という感覚を大切にしています。「似ている」という感覚の裏側には、「ちょっと違う」という感覚があり、この「ちょっと」の加減によって、「変わりモノ」なのか「別モノ」なのかという判断を下すことになります。

ずーっと「似ている」と感じているのは、正月と盆です。このことを指摘している研究者はたくさんいます。今さら、といったところでしょうが、具体的な事例を挙げてみます。

まずは、当館が所蔵する重要有形民俗文化財の七夕人形コレクションからです。流しびな形式の人形とそっくりな人形が、新潟県胎内市の村松浜で、七夕あるいは盆の行事で流されています。これは、形のほかに使用時期も目的も同じです。その新潟県十日町市には、同じ形の人形が小正月に道祖神に供えられます。また、群馬県月夜野町では、同じ形の人形が小正月にベンジョガミとして祀られます。これらは形は同じですが、用いられる時期が正月と七夕で異なり、目的も微妙に異なっています。これは、「変わりモノ」なのか、はたまた「別モノ」なのか、判断に悩みます。

もう一つ、例を挙げてみます。本郷地区の洞で行われている「ダンボ」という、盆の迎え火行事があります。麦藁の束に縄をつけたものを、迎え盆の日の夕方、集落の高いところに持って行き、火をつけて振り回し、訪れる祖先霊の目印にしたといわれています。今井地区の西耕地や朝日村でも「ボンビ」といって同様の行事が行われています。また、上伊那郡箕輪町あたりでは「マンド」と言って、お盆の期間中に行われます。ダンボは南無阿弥陀仏がナンマイダブに訛化し、さらに省略形の末尾のダブがダンボに変化したと考えられます。ボンビは盆火、マンドは万灯で、盆との関係がうかがえます。

有名などころでは、京都の「五山送り火」が同様の行事と思われます。島内の「鳥居火」も同様の行事ですが、「変わりモノ」で、4月に神社の氏子が行います。木曽町の「らっぼしょ」も「変わりモノ」で、山吹山の頂でらっぼを焚き、手に松明を掲げて下山してくる盆の迎え火と思われますが、木曽義仲と巴御前を供養する行事と言われています。「らっぼ」は火を焚くことを指すようですが、その語源は今ではわからなくなっていました。

遠く離れた秋田県角館では、2月の月遅れの小正月に、「火振りかまくら」と言って、稲藁を編んで

作った小さな俵に縄を結え、火をつけて振り回し、五穀豊穡・無病息災・家内安全などを祈願するそうです。正月と盆という時期の違い、それに伴う麦藁の束と稲藁の俵という材料の違いはありますが、火をつけてぐるぐる振り回す姿はよく似ています。

一方で、小正月の火祭りといえば、松本では三九郎です。野沢温泉の道祖神祭りのように、道祖神の祭りと考えられていますが、正月飾りを焚き上げることから、年神様を送る行事という側面もあります。一般的には「ドンドヤキ」と呼ぶところが多いようです。平成25年に文化庁の無形の民俗文化財記録第59集として『盆行事Ⅶ長野県』が刊行されています。調査自体は平成2年にまとめられたもののようです。このなかの東信地区の報告「佐久市内山松井の盆行事」に「ドンドヤキ」という項目があります。

佐久市内山では、戦前まではすべての地区で8月16日の晩に火祭りが行われていたそうです。今でも4つの地区で行われ、松井を除く地区では「ヒヤクヤット」と呼ばれるが、松井地区では「ドンドヤキ」と呼ぶ、と報告されています。その形はカラ松3本を三角錐状に組み、横棒に藁を掛け、小正月のドンドヤキと同様に音がするように中に竹などを入れるそうです。内山地区でも送り盆は供え物を内山川に流したそうですが、ドンドヤキも仏様を送るために行うと認識されているようです。

例に挙げた人形や事象は、正月と盆なので「別モノ」と思ってしまうかもしれませんが、「正月」と「盆」が「変わりモノ」なのか「別モノ」なのかという、もっと大きな視点に立って考えてみると、「変わりモノ」なのではないかと思えるのです。「盆と正月が一緒に来たよう」だと並び称されるように、この二つが「似ている」と感じている人は多いのでしょうか。

(松本市立博物館 館長／木下守)



ダンボ ©前田利恵

蔴の作成について

1 蔴について

蔴は養蚕道具の一つで、育った蚕が繭を作るための場所となる道具です。

蚕は平らな場所では繭を作ることができないため、繭を作る準備ができた蚕は、繭を作るための足場が確保できる立体的な空間のある場所に移します。この蚕が繭を作るための部屋ともいえるのが蔴です。

蔴は、古くは葉を落とした枝を束ね、枝と枝の間に繭を作らせる形のものでしたが、次第に改良が加えられ、藁を蛇腹に折った折藁蔴、折藁蔴の加工法を改良し繰り返し使用できようにした改良蔴、繭を作る際蚕が上へ登ろうとする習性を生かし均一に繭ができるよう工夫された回転蔴などが作られました。

2 歴史の里での蔴の使用

歴史の里では春から秋にかけて、年数回、小規模ながら蚕の飼育展示を行っています。これまでの飼育では、浅めの箱の中に4~5cm幅に切ったボール紙を井桁に組んだ使い捨ての蔴を作成し、使用してきました。

館では改良蔴も所有していますが、繰り返し使用が可能とはいえ、蚕が繭を作る際に出す排泄物で汚れる可能性があるため、実際に使用するには至っていませんでした。

簡単に取り換えができるボール紙の使い捨て蔴も使い勝手は良いのですが、他の伝統的な養蚕道具と一緒に使用するには味気ないと感じていたため、今年は蔴折機で昔ながらの蔴を作成することにしました。



ボール紙で作成した蔴。1つの仕切りの中に1つ繭ができる

3 蔴の作成

今回作成したのは、藁を蛇腹に折った折藁蔴です。

まず、完成した蔴を束ねるための藁を数本置き、針金と木材でできた「差込口」に折るための藁をセットします。次に右側のハンドルを持ち上げ、藁を押さえます。すると、ハンドルについている金属

の板によって藁に折り目が付きます。折り目がついたらハンドルを元に戻し、今度は左側のハンドルを持ち上げ、同じように藁に折り目をつけます。左右交互にこの作業を繰り返すことで、藁が蛇腹に折られていきます。

最後まで藁を折ったら、最初に置いた藁で蛇腹になった藁を束ね、完成です。これで1つ蔴が完成しましたが、この段階ではまだ蔴折機の中に入ったままになっています。このあと、同じようにして2~3個ほど蔴を作成すると、蔴折機の下から最初に作った蔴が押し出されてくる仕組みになっています。

使った藁が短めだったので小ぶりの蔴になりましたが、大きな（長い）蔴を作るには、藁を継ぎ足しながら作成します。

4 むすびに

気候との兼ね合いもあり、当初の予定より少し遅くなりましたが、今年も蚕の飼育展示が始まりました。今年の飼育展示では、今回作成した折藁蔴を使用する予定です。これまでのボール紙で作った蔴と比べ、どんな違いが出てくるかを楽しみに、お蚕さまの成長を待ちたいと思います。

(松本市歴史の里 学芸員／須永瑞希)



藁をセットした蔴折機



折り目のついた藁



完成した折藁蔴

休館通信 ～新博物館への道～

今回は、新博物館のエントラスホールの吹き抜け空間に設置する、松本てまりをモチーフにした作品作りについてお伝えします。

江戸時代中期には女兒の遊びとして流行していたてまりですが、戦後、全く廃れてしまいました。しかし、松本では、昭和30年代に複数の市民の手で復元され、現在では松本の街の彩りとなっています。その復元のもとになったのが松本市立博物館に収蔵されていた古いてまりでした。

私たちは松本てまりを、博物館と市民、過去と現在とをつなぐ象徴としてとらえ、作品のモチーフにすることを決めました。そして、その作品の素材となるてまりを市民のみなさんに作ってもらおうと考えています。

てまり作りにさきがけ、去る5月10日、信州大学の金井直教授のゼミにお邪魔させていただきました。この機会に博物館が新しくなるプロセスを学生たちに学んでもらおうという授業です。学芸員から松本てまりの歴史と新博物館のコンセプトを説明し、リモート参加したアーティストからてまり作品のプレゼンテーションがなされました。



今回の授業に参加した学生は実際にてまりを作るワークショップにも参加し、彼らが作るてまりも作品の一部となります。今後、多くの市民や子どもたちにもてまりを作ってもらおう予定です。

てまりを作るという小さな体験が、新博物館の顔となる大きな作品へとつながっていきます。そのダイナミックな過程を、市民のみなさんと共有していければと思います。

(松本市立博物館 基幹博物館建設担当/高木美保子)

博物館

TOPICS

松本市山と自然博物館 Tel.0263-38-0012

企画展「いきもののなまえ」

私たちの身の回りには様々な生物がいます。普段なにげなく目にする彼らですが、例えば道端に生えている草やその根元を歩き回る小さな昆虫まで、取るに足らないように思える生物にも、それぞれに名前がついています。見た目そのままの名前があったり、人の名前がついていたり、おかしい名前があったり…中には同じ名前と呼ばれる別々の生き物がいたりします。そんな生物とその名前を標本やパネルで紹介します。

また、私たち日本人が普段使っている生き物の名前のほとんどは「和名」という名前です。それとは別にすべての生物には、主に研究の世界で使われる「学名」という名前がついています。「学名」とは何か、生物に名前をつけるとはどういうことかを解説します。

多種多様な生物には、多種多様な名前があります。生物の世界を「名前」というテーマから覗く

企画展示です。ぜひ足をお運びください。

(松本市山と自然博物館 学芸員/内川潤季)

「コムラサキ（蝶）」



大型で紫色のタテハチョウ「オオムラサキ」に対して小型の紫色のタテハチョウであるため付いた名。タテハチョウ類の中で小さいわけではなく、標準的な大きさ。

「コムラサキ（植物）」



同属の「ムラサキシキブ」より小型であることを示す名。紫色の果実が美しいことから園芸用として栽培もされていて、ムラサキシキブとよく混同される。

企画展「いきもののなまえ」

【会 期】7月17日(土)～9月26日(日)

※月曜休館、午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【会 場】松本市山と自然博物館 2階展示室

【料 金】通常入館料(大人個人310円、中学生以下無料)

夏季特別展「江戸時代の時」

江戸時代の人はどうやって時間を知ったの？

江戸時代の和時計はとても高価で、持っているのは大名や豪商など限られた人たちでした。また、季節により1刻^{とつき}の長さが異なる、自然のリズムにそった時刻制度でした。

では時計を持っていない庶民はどのように時間を管理していたのでしょうか。実は、お城やお寺では、人々に時刻を知らせるために、毎日決まった時刻に「時の鐘」を撞^ついていました。江戸市中では、上野寛永寺が初めに撞き、合計9か所の時の鐘が後を追って撞きました。



お籠時計 江戸時代末期

現代では1日24時間で、分や秒まで知ることができます。しかし、江戸時代は時間の概念が大ざっぱで1

日に12刻しかありませんでした。

時の鐘は、まず気づかせるための「捨て鐘」を3つ打ちます。その音に続き、9回鐘が鳴れば九ツ^{この}（夜中の12時もしくは正午）。それから約2時間おきに八ツ^や（午前2時～4時）、七ツ^{なな}、六ツ^む…となり、正午にまた九ツに戻ります。ちなみに「3時のおやつ」の「おやつ」は「八ツ刻」からきた言葉だそうです。

今回の展示では、「和時計」「暦」「時の鐘」をテーマに展示します。江戸時代の人々の生活について思いを馳せてみてください。

（松本市時計博物館 学芸員／大島浩）

夏季特別展「江戸時代の時」

[会 期] 7月31日[㊤]～9月12日[㊥]
※月曜休館、午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
[会 場] 松本市時計博物館 3階企画展示室
[料 金] 通常入館料（大人310円、小中学生150円）

まつもとの七夕 2021

松本地方の七夕は、月遅れの8月7日に行われます。その月遅れの七夕では、男女一對の七夕人形を軒先に飾り、季節の野菜を供え、幅広い麺に黄粉^{きなこ}や餡をからめたホウトウや七夕まんじゅうを供えて食べるという全国的にも珍しい風習が残されています。

博物館では今年も博物館連携事業として5つの分館で七夕人形の情景展示を行うほか、期間中、市民学芸員による七夕講座や七夕人形作り講座などを開催します。

また、昨年初めての試みとして実施した「七夕人形流し」を今年も行います。この「七夕人形流し」は、国の重要有形民俗文化財に指定されている「七夕人形コレクション」（松本市立博物館蔵）の中に含まれる「流しびな形式」の七夕人形に由来するものです。「流しびな形式」の七夕人形は、盆行事のはじめの「祓^{はら}」の習俗に属するものであり、七夕人形に自身の「穢^{けが}れ」や「厄災^{やくさい}」を移し、河川に流す行事に使われたものと考えられます。

みなさんの「厄災」を移した七夕人形は、8月8日（日）に歴史の里で館内の小川に流します。

ぜひ、期間中、松本地方の七夕を体験してください。

（松本市歴史の里 学芸員／須永瑞希）



昨年の七夕人形流しの様子

まつもとの七夕 2021

[会 期] 7月3日[㊤]～8月15日[㊥]
[連携館] 松本市はかり資料館 Tel.0263-36-1191
重要文化財馬場家住宅 Tel.0263-85-5070
窪田空穂記念館 Tel.0263-48-3440
松本市歴史の里 Tel.0263-47-4515
松本市安曇資料館 Tel.0263-94-2134

※それぞれの事業の詳細は、各館にお問い合わせいただくか、松本まるごと博物館ホームページをご覧ください。

展示スケジュール

詳細はホームページへ! <https://www.matsu-haku.com/> まる博 検索

館名称	7月	8月	9月
旧制高等学校記念館	■「旧制高校スポーツ展」 7/17(土)～9/20(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		
松本市時計博物館	■夏期特別展「江戸時代の時」 7/31(土)～9/12(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		
松本市山と自然博物館	■企画展「いきもののなまえ」 7/17(土)～9/26(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		
県宝旧山辺学校校舎	■「夏休みの自由研究にどうですか。昔の道具調べ」 7/22(木)～8/31(日) ※月曜休館(休日の場合は翌平日)		

重文馬場家住宅から

☎0263-85-5070

馬場家文書を読む

馬場家に残る文書を読み解き、記された内容や当時の時代背景などを解説します。

日時 ①第3回目 7月24日(土)
②第4回目 8月28日(土)
各回午前9時30分から11時30分まで

料金 500円

定員 各回10名

講師 信濃史学会会員 太田秀保氏

申込み ①は7月10日(土)
午前9時から前日まで
②は8月14日(土)
午前9時から前日まで
電話で馬場家住宅へ



歴史の里から

☎0263-47-4515

【蚕の繭から糸をとってみよう!】

蚕の繭1つからどれくらいの長さの糸がとれるか、実際に手作業で糸をひいて測ります。

日時 7月24日(土)、8月28日(土)
いずれも午前9時30分～正午

料金 通常観覧料

定員 5名

対象 小学生以上(中学生以下は保護者同伴)

申込み 各開催月の6日 午前9時から電話で歴史の里へ



※申込み・問合せは各館へお電話ください

掲載されている各種事業は、新型コロナウイルスの感染状況等によって急遽中止となる場合がございます。開催の可否等については、各館にお問い合わせください。

「まつもとの七夕2021」関連事業

※ 問合せは各館まで

七夕人形作りコーナー

期間中、折り紙などで簡単な七夕人形を作ることのできるコーナーを設けます。

期間 7月3日(土)～8月15日(日)

会場 はかり資料館、窪田空穂記念館、馬場家住宅、歴史の里

七夕人形作り講座

製作キットを用いた七夕人形作り講座を開催します。

日時 7月7日(火)、8月7日(金) 各日午後1時30分～午後3時30分

会場 馬場家住宅

料金 1,000円及び通常観覧料

定員 各回10名

市民学芸員によるカータリ作り講座

身近な材料を使ったカータリ人形の作り方を市民学芸員が教えます。

日時 8月7日(土) 午前10時～午後3時

会場 はかり資料館

料金 通常観覧料

七夕人形流し

期間中、来館された方にお渡しする七夕人形を集め、厄祓いの行事「七夕人形流し」を行います。

日時 8月8日(日) 午前9時

会場 歴史の里

料金 無料(歴史の里を見学する場合は、別途観覧料が必要)



あとがき

「来年の夏頃には元通りの生活に戻れるよ」と話していたのに、相変わらずコロナ禍は続いています。これだけ科学・医学の発達した現代においても不安に陥る疫病の流行。昔の人々が様々な行事や風習に込めた疫病退散・無病息災の願いを、これほど身近に感じる機会もなかなかないのではと感じます。(松本市歴史の里 須永瑞希)

あなたと博物館 No.235

発行年月日/令和3年7月1日

編集・発行/松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <https://www.matsu-haku.com/>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.lg.jp



印刷 川越印刷株式会社